



赤ちゃんの脳と肌の重要な関係

皮膚はヒトのからだのいちばん外側に存在し、脳や神経は一番内側に存在しています。皮膚というのは、『露出した脳』とも言われ、脳と同じ物質が含まれているそうです。

ヒトの皮膚と脳や神経は、 同じ起源を持っています

少し難しい話ですが、ヒトが受精すると、受精卵は外胚葉(がいはいよう)、内胚葉(ないはいよう)、中胚葉(ちゅうはいよう)という3つのパーツに分かれます。内胚葉は、胃や大腸、肺になり、中胚葉は筋肉、骨、血液になります。それでは、外胚葉は何になるのでしょうか？外胚葉は、皮膚と脳や神経となります。かたやヒトのからだの外側で外敵と日夜戦う皮膚、かたやヒトのからだの中央で何層にも守られた脳や神経になります。最終的に住む場所は大きく隔たりましたが、皮膚と脳・神経は同じルーツにたどり着けるのです。

早期母子接触やタッチングは 脳の活性化になる

赤ちゃんが生まれるとすぐにママの胸に乗せる早期母子接触が行われますが、それが赤ちゃんの発育や母性を育てるのによい影響を与えているといわれています。また、タッチング、皮膚のマッサージなど赤ちゃんの皮膚表面を刺激することが、脳・神経の発達にとってもよいことがわかっています。皮膚は脳や神経と同じような刺激に反応するセンサーを持っています。皮膚に刺激を与えると、すぐに脳や神経に伝わり、脳を活性化し、心と体の発達によい影響を与えるのは、このように皮膚と脳や神経の起源が同じだということから理解できます。



赤ちゃんにとって、母乳育児が大切なことは、
誰でもわかっていますが、それ以上に大切なことは、
ママやパパが両手でしっかりと赤ちゃんを抱いてあげることです。
そうすれば、赤ちゃんは、両親に守られている、
愛されていると肌を通して、脳で実感することができ、
安心と満足の中で健やかに育まれることでしょう。

